平成２６年度　　第２回　技術部会

Ｃ１部会　　平成２７年２月８日（日）　　全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項 ==========

１　平成２７年度　競技規則，採点規則の全国高校適用規則について（確認）
２　平成２７年度　全国高校総体（大阪）の実施要項について
３　平成２８年度　全国高校総体（島根）の実施要項について
４　平成２６年度　全国高校選抜（広島）の実施要項について
５　平成２７年度　全国高校選抜（石川）の実施要項について
６　その他
　(1) 決勝での跳馬の２本跳躍について（問題点・ブロック大会の採用について）
　(2) 継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
　　＊ブログの掲載方法について

==== 審議結果 ==========

１　平成２７年度　高校適用規則（競技規則，採点規則）の確認
　○高校適用規則（2015 年改訂版）について
　・つり輪の力静止技における加点（D スコア）
　　…グループⅢおよびⅣにおいて，D 難度の認定で 0.1 の加点，E 難度以上の認定で 0.2 の加点がなされる。
　　※力技を奨励する内規ではあるが，発展途上，発育途上の選手への健康上の配慮を忘れないように注意して下さい。
　　力技を多用すれば肩や肘への負担が大きくなることもご理解の上少しずつ強化できればという願いがあります。
　・５その他６）
　　→プロテクターが破損した場合や負傷により出血した場合に限り，３０秒を超えて演技の再開を認める。
　　これらは，あくまでもプロテクターの交換や止血のための措置に限る。

２　平成２７年度　全国高校総体（大阪）大会について
　・実施要項Ｐ９男子種目別決勝，Ｐ１０注５注６に種目別跳馬決勝についての補足説明が掲載されている。
　・練習時間割表（案）※２に試合当日の練習について説明が掲載されている。

３　平成２８年度　全国高校総体（島根）大会実施要項について
　特になし

４　平成２６年度　全国高校選抜（広島）大会実施要項について
　特になし

５　平成２７年度　全国高校選抜（石川）大会実施要項について
　特になし

６　その他
　（１）継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項
　○継続審議事項
　○要望事項
　　1) 平行棒の50秒アップ計時について総会で確認済み（H22年度から継続）
　　→平行棒のアップ時間計測の計時審判を配置するか，タイマー計時等の機材を設置してほしい。
　○今後の検討審議事項
　　1) 決勝での跳馬の２本跳躍について（問題点・ブロック大会の採用について）
　　・各ブロックの状況に応じて対応していただきたい

　※ブログの掲載方法について
　　各ブロック大会の結果を載せることは良いかと思うが，ランキングにして並べかえる必要はないと感じられる。

平成２６年度　　第２回　技術部会

Ｃ３部会　　平成２７年２月８日（日）　　全国高等学校体育連盟体操専門部

==== 審議事項 ==========

１　平成２５年度以降の個人手具の確認

個人手具の確認	全国高校総体	全国高校選抜大会
平成２６年度	（クラブ）（ｽﾃｨｯｸ ）	（ｽﾃｨｯｸ）（リング）（ロープ）（クラブ）
平成２７年度	（ｽﾃｨｯｸ ）（リング）	（ｽﾃｨｯｸ）（リング）（ロープ）（クラブ）
平成２８年度	（リング）（ロープ）	（ｽﾃｨｯｸ）（リング）（ロープ）（クラブ）
平成２９年度	（ロープ）（クラブ）	（ｽﾃｨｯｸ）（リング）（ロープ）（クラブ）
平成３０年度	（クラブ）（ｽﾃｨｯｸ ）	（ｽﾃｨｯｸ）（リング）（ロープ）（クラブ）

２　平成２７年度競技規則・採点規則の全国高校適用について
３　平成２７年度　全国高校総体（大阪）の実施要項について
４　平成２８年度　全国高校総体（島根）の実施要項について
５　平成２７年度　全国高校選抜（広島）の実施要項について
６　平成２８年度　全国高校選抜（長野）の実施要項について
７　その他
（1）継続審議事項・要望事項・今後の検討審議事項等
＊応援モラルについて（男女とも）

==== 審議結果 ==========

１　平成２７年度以降の個人手具の確認
＊上記のとおり。

２　平成２７年度　競技規則・採点規則の全国高校適用について（確認）
＊特になし。

３　平成２７年度　全国高校総体（大阪）の実施要項について
＊特になし。

４　平成２８年度　全国高校総体（島根）の実施要項について
＊特になし。

５　平成２６年度　全国高校選抜（広島）の実施要項について
＊特になし。

６　平成２７年度　全国高校選抜（長野）の実施要項について
＊特になし。

７　その他　　（日本体操協会　男子新体操委員会　山田先生　　前田先生）
＊2015年版規則集の販売は2月10日以降インターネット上で通知。(5,000円程度)
＊新ルールの適用については，平成27年度は全日本選手権に採用。
＊応援のマナーについて「モラル」のある応援態度でお願いしたい。
＊応援モラルについて（男女とも）・・・・継続して指導していく。

平成26年度　全国高等学校総合体育大会（東京）審判員報告

Ｃ１：男子体操競技審判員報告

男子審判長　後藤洋一

平成26年度全国高等学校体操競技選手権大会は、8月2日～4日に東京都国立代々木第一体育館において開催されました。代々木第一体育館は、1964年東京オリンピックのために建設された体育館であり、半世紀過ぎた今でも斬新なつり橋構造の建築物であります。様々なスポーツイベントが実施され体操競技では1979年ワールドカップ東京大会や数々の国際大会、日本代表決定競技会が開催されており、高校生にとってこのような憧れの競技場で演技できたことは素晴らしい経験であったことと思います。

競技は、平成25年度版高等学校適用規則を適用し男子体操競技情報21号（改訂版）までを採用いたしました。昨年度、FIG規則が改正され、1年が経ちました。その間、FIGでは規則の一部修正や世界選手権ベルギー大会で発表された新技等の情報を国内情報21号として2月に公開しました。その後FIGより新たな情報が通達され、その情報を網羅し情報21号（改訂版）として国内に通達をいたしました。このような通達がなされても現場の選手や監督の皆様には大きな問題もなく浸透されているようでした。高等学校適用規則の精神は、「美しい体操の構築」と「基本技の習熟」を評価することであり、不完全な実施や自己の能力を超えたような演技に対して規則通りの対応を行い、高校生が安全に将来の方向性を導けるようEスコアの採点について打ち合わせをいたしました。

団体決勝は、市立船橋高校が2年連続3回目の優勝をはたしました。非常に完成度高いチームでありました。下記表のように4名の選手の演技実施は大変すばらしくDスコアが群を抜いてだけでなく、各種目のEスコア（ベスト3）の合計が161.90は、1演技平均8.994でありました。市立船橋以外の上位チームは前年よりDスコアを2~3点上げていましたが、Eスコアは下がってしまい得点差は開いてしまいました。

◇決勝上位校のＤ･Ｅスコア（ベスト３）

順	学　校	ゆ　か	あん馬	つり輪	跳　馬	平行棒	鉄棒	合　計	総合計
1	市立船橋	18.10 27.15	16.90 27.25	16.80 26.35	16.00 28.00	18.10 26.60	17.60 26.55	103.50 161.90	265.30
2	清　風	18.20 26.40	16.60 25.45	16.60 26.20	16.00 27.10	17.50 23.05	17.10 25.95	102.00 154.15	256.05
3	岸　根	18.80 26.80	15.10 24.25	16.40 25.50	16.00 27.65	16.20 25.90	16.80 25.90	99.30 156.00	255.30
4	埼玉栄	18.00 25.30	16.00 25.20	16.50 25.60	16.40 27.75	17.20 25.05	16.60 24.50	100.70 153.40	252.70
5	関　西	17.40 26.75	15.20 25.00	15.30 25.60	16.00 27.50	16.20 25.65	17.00 25.10	97.10 155.60	251.45
6	洛　南	16.80 26.80	15.80 25.35	16.70 25.30	15.60 26.70	16.30 25.00	16.00 25.10	97.20 154.25	247.75

※上段:Dスコア　下段:Eスコア

※ニュートラルディダクション（ライン、タイム）は省略

個人総合は、谷川航選手（市立船橋）が、各種目安定した演技で決勝では4種目で15点を越え90.75で優勝しました（Dスコア：36.2、Eスコア：54.55）。第2位にはゆかと跳馬で高得点を出し89.90を獲得した白井健三選手（岸根）が、3位にはあん馬と平行棒で高得点を出した萱和磨選手（習志野）が89.80で入りました。Dスコアが高かった選手は、白井選手：37.0、萱選手：36.3、谷川選手：36.2、千葉健太選手（清風）：35.0でした。前年から谷川選手は2.3、白井選手は2.5のDスコアを高めました。Dスコア33.0以上が15名、32.0以上が32名、30.0以上が57名でした。Eスコアの高かった選手は、谷川選手54.55、湯浅賢哉選手（市立船橋）54.00、萱選手53.50、北村郁弥選手（明星）53.25でありました。52点以上の選手が8名、50点以上の選手が39名（84名中）でした。

団体予選通過16位の得点は235.30と昨年（234.90）とほぼ同じでした。上位チームも250点以上が昨年3チームから6チームと増加傾向にありました。予選での6種目のDスコアの合計は、市立船橋：103.4、清風：100.7と2校が100点を越えました。以下、埼玉栄：99.8、鯖江：99.8、岸根：99.0、洛南：96.0でした。予選を通過した中では13位通過の小松島が86.1で最低値でした。Eスコアの合計では市立船橋が159.80と群を抜いており、清風：155.95、関西：154.70、中京：154.20であり14校が150点を越えました。一方、予選を通過しなかったチームでも17位の藤井：151.25、22位の市立尼崎：150.10と演技実施の良さを示しました。個人での予選通過は78.80（前年77.50）と若干向上しました。予選では85点以上が11名（前年7名）、80点以上が49名（前年37名）と全体的に得点は向上したと考えられます。個人のDスコアでは白井選手：37.0、萱選手：36.1、谷川選手：36.0、加藤裕斗選手（埼玉栄）：35.3、千葉選手：35.0でありました。個人で予選を通過した20選手中17名がDスコアの合計で30点を越えていました（最低値は29.1）。

昨年、種目ごとのベスト3であん馬とつり輪の得点が他の種目に比べて低いことを報告しましたが、つり輪においては全体的にチーム得点が向上していました。一方、あん馬ではベスト3のEスコアが24.00（8点平均）に満たなかったチームが昨年の4チームから増え8チームになっていました。今後も、つり輪とあん馬での実施面での向上を期待します。

ここ数年マナーアップという観点についてお願いをしています。いくつかお願いした点については改善されているように感じました。跳馬の演技終了後に助走路でストレッチや、平行棒の準備にチームの大多数で調整するシーンがありました。引き続き、ご配慮をお願いします。

鉄棒の手放し技の落下で腰を痛めた選手に対し、息が整い、痛みがとれてからの実施でないと、さらなる怪我に繋がるという判断のもと、つり輪でプロテクターが破損した選手に続行の意思を確認し30秒を超えての演技再開を認めたケースがありました。落下による休息とは別に、今後このようなケースに対し、適切な対処方法の取り決めを検討する必要性を感じました。

今大会、残念ながら競技中や競技前の練習で負傷し演技を最後まで行うことが出来なかった選手が数名いました。詳細な調査を行ったわけではありませんが、下腿部、特に脛（すね）の痛みを訴える選手が増えたと聞きます。下腿部の痛みは疲労骨折になる可能性があります。ゆかフロアーや跳躍板の反発力が向上し少ない筋力でも大きな跳躍や宙返りの連続のような練習が可能になっています。気が付かないうちに体への負担が大きくなっているのかもしれません。競技力向上のためにはハードな練習が必要となりますが、発展途上の選手の身体への負担、十分なアフターケアにも留意され子供たちがのびのびと競技できるようご指導願いたいと思います。

最後に、大会運営や補助役員のご指導にあたられた東京都体操協会の皆様に心より感謝申し上げます。

《ゆ　か》

D1（主審）： 田沼寛文

1. 採点上打ち合わせた事項
   - 平成 25 年度高等学校適用規則、2013 年版採点規則の確認。
   - 演技に安定感があり、指先や足先、肩の線や体線にまで美しさを感じる演技を評価する。
   - 雄大なタンブリングと安定した着地を評価する。
   - 演技全体を通してリズミカルで美しい演技を評価する。

2. 採点上起こった事項とその処理
   - 前方から両足踏み切り側方宙返りを実施したものは、明らかな側方の空中局面がなかったのと難度表にないことから不認定とした。
   - 脚上挙支持(2 秒)から伸腕屈身力倒立(2 秒)を実施しようとし、倒立位で瞬時の静止が見られなかったため脚上挙のみの B 難度を認定し実施減点した。
   - 側方宙返り 1 回ひねりにおいて、明らかに後方系のひねりになっているものや側方の姿勢がみられないものについては、不認定とした。微妙な捌きについては、実施減点で対応した。
   - 十字倒立については、高さと静止時間について厳しく減点した。

3. その他特記事項・意見・感想等

■ 得点上位者(3 位まで)の演技構成

- <u>第１位　白井健三（岸根）　D:7.4　E:9.30　F:16.700</u>
  後方宙返り 7/2 ひねり(Ⅲ)～前方宙返り 2 回ひねり(ⅡE+D)　前方宙返り 1 回ひねり(Ⅱ)～前方宙返り 3 回ひねり(ⅡC+F)　テンポ宙返り(Ⅲ)～後方宙返り 3 回ひねり(ⅢB+D)　脚上挙支持から伸腕屈身力倒立(ⅠC)　後方宙返り 5/2 ひねり(Ⅲ)～前方宙返り 5/2 ひねり(ⅡD+E)　側方宙返り 1 回ひねり(ⅣC)　後方宙返り 4 回ひねり(ⅤF)
- <u>第２位　谷川　航（市立船橋）　D:6.３　E:9.30　F:15.650</u>
  前方屈身２回宙返り（ⅡE）　後ろとびひねり前方屈身 2 回宙返り(ⅣE)　マンナ(ⅠC)　十字倒立(ⅠC)　前方宙返り２回ひねり(Ⅱ)～前方宙返り 1/2 ひねり(ⅡD+B)　後方宙返り 2 回ひねり(ⅢC)　後方宙返り 5/2 ひねり(Ⅲ)～前方宙返り 3/2 ひねり(ⅡD+C)　後方宙返り 3 回ひねり(ⅤD)
- <u>第３位　内田　龍馬（岸根）　D:6.2　E:9.05　F:15.250</u>
  前方宙返り 1 回ひねり(ⅡC)～前方宙返り 5/2 ひねり(ⅡE)　後方宙返り 3/2 ひねり(ⅢC)～前方宙返り２回ひねり(ⅡD)　側方宙返り 1 回ひねり(ⅣC)　後方宙返り 5/2 ひねり(ⅢD)～前方宙返り 1/2 ひねり(ⅡB)　前後開脚(ⅠA)十字倒立(ⅠC)　後方宙返り 2 回ひねり(ⅢC)　後方宙返り 3 回ひねり(ⅤD)

■ 決勝で実施された主な技(D 難度以上)

- GⅡ/前方屈身 2 回宙返り(E):2 名、前方宙返り 2 回ひねり(D):67 名、前方宙返り 5/2 ひねり(E):17 名、前方宙返り 3 回ひねり(F):1 名
- GⅢ/後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり(E):1 名、後方伸身 2 回宙返り(D)、後方宙返り 5/2 ひねり(D):78 名、後方宙返り 3 回ひねり(D):52 名、後方宙返り 7/2 ひねり(E):4 名、後方

宙返り 4 回ひねり(F):1 名

・ GIV/後ろとびひねり前方かかえ込み 2 回宙返りひねり(D):3 名、後ろとびひねり前方かかえ込み 2 回宙返り(D):10 名、後ろとびひねり前方屈身 2 回宙返り(E):8 名

■ 所感

着地を意識して演技をする選手が増えてきた。しかし、全体的に演技の難度を上げてきているせいか、着地の乱れや姿勢の乱れが多く見られた。特に、ひねっている時の足割れ、高さ不足。宙返りの連続の時のひねり不足のため大きく減点される選手が多かった。0.1 でも D スコアを上げるために、十字倒立を行っている選手が多かったが、静止時間や肩の高さの減点が非常に多かった。

側方宙返り 1 回ひねりを実施している選手が多く見られたが、昨年度と比べると修正されてきており、正しい実施でのぞむ選手が増えてきた。後方宙返り 5/4 ひねりに見える捌きについては、B 難度（グループⅢ）で判定した。

現時点でのルールでは、ビッグタンブリングを実施するよりもひねり系の技を多くいれて D スコアを上げているが、雄大で高さのある宙返り、指先や足先までいき届いた美しい姿勢、安定した着地を意識して、今後の練習に励んで欲しい。今回の大会で、鳥栖工業高校の小畠選手のタンブリングの高さが素晴らしく、特に後ろとびひねり前方屈身 2 回宙返りは観る人を魅了する素晴らしい実施であった。

《あん馬》

D1（主審）：森　　直樹

1. 採点上打ち合わせた事項

・平成 25 年度高等学校適用規則，2013 年版採点規則の確認。
・演技に安定感があり、足先や肩の線、体線にまで美しさを感じる演技を評価する。
・腰高で十分に体を伸ばしたスピード感のある安定した旋回を評価する。
・交差技だけでなく、入れ・抜き等の片足振動においても雄大性を求める。

2. 採点上起こった事項とその処理

・すべての技は明確な正面支持を示した時点で完了となる。手が入っていても、明確な支持ができずに落下したものは難度不認定とした。
・縦向き 3/3 移動技において途中で落下したものは、移動が完了している部分までの難度を認定した。
・縦向き前移動 1/4 ひねり（B）や、縦向き 1/2 部分後ろ移動（B）において、縦向きの角度逸脱が 45°を越えたまま移動したものは難度不認定とした。
・終末技で倒立に上げる技において、角度逸脱が 45°を越えたものであっても、明確な支持姿勢と上昇局面が見られるものは難度を認定した。（高校適用規則）
・終末技で倒立に上げてひねりや移動をする技において、技の途中で下りた場合であっても、移動やひねりがしかけられていた場合は、完了している部分までの難度を認定した。
・終末技において、高校適用規則で認められる範囲を除き、大欠点を伴う実施は難度不認定とした。（予選 24 件、決勝 5 件）
⇒倒立方向への明確な上昇局面がみられず、角度が水平位のもの，停止した後に力を使っ

て倒立に上げたもの，肘が深くまがり倒立に上がらなかったもの，足先で馬体を蹴って倒立に上げたもの，上げかけた脚や腰が大きく下がったもの，認められない終末技を実施したもの

・終末技において難度不認定となる実施をした場合は、やり直しを認めた。
⇒実際に終末技をやり直した選手は予選では 24 名中 2 名、決勝では 5 名中 2 名。

・技数が 7 技未満であった演技には、技数不足として決定点から相応の減点をおこなった。（予選 14 件、決勝 0 件）実施減点と技数不足の減点を合わせると 10 点を越えてしまう場合は E スコアを調整し、D スコアを残すようにした。

3. その他特記事項・意見・感想等

■得点上位者（３位まで）の演技構成

・第１位　萱　和麿（習志野）15.600　D:6.7　E:8.90

ブスナリ（ⅡG），逆交差 1/4 ひねり倒立経過下ろして開脚支持（ⅠD），逆交差 1/4 ひねり倒立 1/4 ひねり逆把手に片腕支持逆交差入れ（ⅠD），SLLS（ⅣE），LLR（ⅣD），ロス（ⅣD），一把手上縦向き旋回（ⅡB），マジャール（ⅢD），シバド（ⅢD），下向き逆移動倒立 3/3 部分移動下り（ⅤD）

・第２位　谷川　航（市立船橋）15.200　D:6.1　E:9.10

正交差 1/4 ひねり倒立経過下ろして開脚支持（ⅠD），逆交差 1/4 ひねり倒立経過下ろして開脚支持（ⅠD），SLLS（ⅣE），LLR（ⅣD），一把手上縦向き旋回（ⅡB），マジャール（ⅢD），シバド（ⅢD），シュテクリ B（ⅣB），下向き転向（ⅣB），下向き逆移動倒立 3/3 部分移動下り（ⅤD）

・第３位　千葉　健太（清風）　14.850　D:5.7　E:9.10

逆交差 1/4 ひねり倒立経過下ろして開脚支持（ⅠD），横向き旋回（ⅡA），SLLS（ⅣE），LLR（ⅣD），一把手上縦向き旋回（ⅡB），マジャール（ⅢD），シバド（ⅢD），シュテクリ B（ⅣB），下向き転向（ⅣB），下向き逆移動倒立 3/3 部分移動下り（ⅤD）

■決勝で実施された主な技（D 難度以上）と実施数　＊( )内の数字は昨年大会の数

・Group Ⅰ

逆交差 1/4 ひねり倒立経過下ろして開脚支持(D)：25(13)名
正交差 1/4 ひねり倒立経過下ろして開脚支持(D)：1(0)名
逆交差 1/4 ひねり倒立 1/4 ひねり逆把手に片腕支持逆交差入れ(D)：1(0)名

・GroupⅡ

ブスナリ(G)：1(0)名

・GroupⅢ

マジャール (D)：35(28)名
シバド (D)：69(58)名

・GroupⅣ

E フロップ(E)：30(16)名
D フロップ(D)：19(22)名

D コンバイン(D)：25(13)名
トンフェイ(D)：1(2)名
ロス(D)：15(9)名
ウ・グォニアン(E):1(0)名

・Group V （終末技）
下向き逆移動倒立 3/3 部分移動 1 回ひねり下り(E)：4(1)名
DSA 倒立 3/3 部分移動 1 回ひねり下り(E)：1(0)名
下向き逆移動倒立 3/3 部分移動下り(D)：30(29)名
DSA 倒立 3/3 部分移動下り(D)：7(8)名
ロシアン 1080°転向下り(D)：3(1)名
旋回背面とび横移動倒立 3/3 部分移動下り(D)：3(5)名
旋回倒立 3/3 部分移動 1 回ひねり下り(D)：1(0)名

■所　感

今大会は、昨年度までの大会に比べ、D 難度以上の技を実施する選手が急激に増え、決勝における D スコアの平均値も昨年度に比べて 0.25 上がった（昨年度 4.60、今年度 4.85）。中でも決勝において、交差倒立（D）やシバド（D）、E フロップや D コンバインを実施した選手は、昨年度大会と比較し、それぞれ 10 名以上増えた。D フロップにおいては「ループ連続＋シュテクリ A」（下図参照）を実施した選手が今大会を通じて多くいたことが印象に残った。

D スコアが上がった一方で、E スコアは 0.2 下がった。これは、落下がとても多かったことによる結果である。（落下は予選 263 名中 103 回。決勝は 85 名中 23 回）。昨年度は縦向き移動技での落下が特に多かったのに対して、今年度はフロップやコンバインなどの転向技での落下が目立った。落下以外の主な減点としては、交差技や、交差技の前後の足入れ・足抜きの片足振動の小ささ、演技中の細かいスリ（毎回-0.1）の多さ、姿勢の乱れや足開きなどである。しかしながら、多くの選手が積極的に技を増やし、D スコアアップに努めてきたことは評価すべき点であると考える。これからも、あん馬の基盤である、雄大でスピード感のある旋回、柔軟性が表現されたダイナミックな交差技、習熟された安定感のある演技の大切さを忘れずに、日頃のトレーニングに励んでいただきたいと感じた。

《つり輪》

D1（主審）：近藤昌夫

1.　採点上の打ち合わせ事項
- 力強さと安定感のある演技を評価する。
- 一つ一つの技の減点を厳密に行いつつ、E-Score の序列を考慮し演技全体の評価を行う。
- 振動からの力静止技の判定基準は、正しい姿勢から 45°を逸脱していない場合認定する。
- 静止技の静止時間の減点（2 秒未満は全て－0.30）。
- ヤマワキ、ジョナサンの出来映えに優劣をつける。

2. 採点上起こった事項とその処理

① 後ろ振り上がり開脚水平支持の静止が見えない実施、足が輪より下がった実施は認定しなかった。

② 後ろ振り上がり十字懸垂で持ち込む時、肘が曲がり過ぎる実施は認定しない、または減点を多くした。

③ ホンマ十字懸垂の支持局面が見えた実施は 2 技に分割した。

④ 伸腕屈身力倒立の肘が曲がり過ぎると屈腕屈身力倒立で認定した。

⑤ 後方車輪(B)で倒立経過がなく角度も満たしていないものは後方懸垂回転(A)として認定した。

⑥ 演技中プロテクターが切れた選手に対しては 30 秒を超えても演技を続けさせた。

3. 決勝における上位者の演技

・ 1 位　高橋一矢（中京）15.050　D：6.1　E：8.95

アザリアン（D）後ろ振り上がり水平支持（D)、ほん転十字倒立（D)、後方ほん転倒立（C)、後ろ振り上がり倒立（C)、ジョナサン（D)、ヤマワキ（C)、ホンマ十字懸垂（D）伸腕屈身力倒立（B)、後方車輪（B)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり下り（E）

・ 2 位　谷川　航（市立船橋）14.800　D：5.9　E：8.90

後ろ振り上がり水平支持（D)、ほん転十字倒立（D)、後ろ振り上がり開脚水平支持（C)、後ろ振り上がり倒立（C)、後方ほん転倒立（C)、ジョナサン（D)、ヤマワキ（C)、ホンマ十字懸垂（D)、後方車輪（B)、後方かかえ込み 2 回宙返り 3/2 回ひねり下り（D）

・ 3 位　楠川　雄太（田辺工業）14.750　D：6.0　E：8.75

中水平支持（D)、ナカヤマ（D)、後ろ振り上がり開脚水平支持（C)、後方ほん転倒立（C)、後ろ振り上がり倒立（C)、ジョナサン（D)、ヤマワキ（C)、ホンマ十字懸垂（D)、屈腕伸身力倒立（B)、後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり下り（E）

4. D スコアの分布（決勝 85 名）

6.1:1 名　6.0:1 名　5.9:3 名　5.8:4 名　5.7:3 名　5.6:8 名　平均 5.15（前年度 4.94）

実施された技(D 難度以上)

グループⅠ：ジョナサン（D）56 名

グループⅢ：後ろ振り上がり中水平（E）1 名、ホンマ十字懸垂（D）36 名、ほん転十字倒立（D）9 名、後ろ振り上がり脚上挙十字懸垂（D）2 名、後ろ振り上がり水平支持（D）2 名

グループⅣ：中水平（D）6 名、アザリアン（D）2 名、ナカヤマ（D）2 名、十字倒立～引き上げ倒立（D）1 名

グループⅤ：後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り（F）・・・・・・・・　1 名
後方かかえ込み 2 回宙返り 2 回ひねり下り（E）・・・・　11 名
後方伸身 2 回宙返り 1 回ひねり下り（D）　・・・・・・・　16 名
後方かかえ込み 2 回宙返り 3/2 ひねり下り（D）・・・・　21 名
前方屈身 2 回宙返り下り（D）・・・・・・・・・・・・・・　2 名

5.　その他・特記事項・感想

今一度確認して頂きたいが、つり輪は2秒静止を要求されている技がほとんどである（終末技とグループＩで静止しないものを除く）。脚前挙や力倒立技、振動倒立なども当然 2 秒静止が必要となってくる。しかしながら予選では、演技を急ぐあまりか静止が十分でない選手が多く見られた。また、輪の揺れに対する対処も予選出場選手の中には散見され、演技中一度起こった揺れがおさまらないままずっと減点されることが多かった。

決勝では例年よりもＤ難度以上の力技を実施する選手が増加していた。中水平や十字倒立などが上位選手の中に増えてきたことは喜ばしいことである。またＤ難度以上の下り技も増えており、Ｄスコアの向上が全体的に見られる。ただ残念なのは後方伸身2回宙返り1回ひねり下りで、伸身姿勢が曖昧なものが多く、屈身で判定されてもおかしくないものがほとんどであったことである。そんな中、慶応高校の田中選手は後方伸身2回宙返り2回ひねり下りを実施し着地までまとめてきた。国内でもまだ実施が少ない大技に挑戦したことに対して敬意を表したい。

《跳　馬》

D1（主審）：花北　　圭

1.　採点上打ち合わせた事項

・平成25年度高等学校適用規則、2013年版採点規則、情報21号（改訂版）の確認。
・高さと飛距離、及び着地準備局面を示す雄大な跳越を評価する。
・演技全体として、雄大でまとまりのある実施であるかどうかを評価する。
・実施された技の確認作業とともに、Ｅスコアの序列を考慮し、演技全体の評価を行う。

2.　採点上起こった事項とその処理

・危険な実施には厳しく採点した。
・残念ながら怪我をした選手がいた。応急手当後落ち着くまでの時間を設け、次の演技者と監督に演技できるかの確認を行った。
・体調不良になった審判員がいたため（予選 1 日目最終班第 4 ローテーション終了時点）、補審と交代していただいた。

3.　その他特記事項・意見・感想等

■決勝における上位者（6位まで）の演技

・第１位　白井　健三（県立岸根）　15.400
　　Ｄ：6.0「シライ／キム・ヒフン」　　Ｅ：9.40
・第２位　谷川　航（市立船橋）　15.100
　　Ｄ：5.6「ドリッグス」　　Ｅ：9.50（着地加点有）
・第３位　千葉　健太（清風）　15.000
　　Ｄ：5.6「ドリッグス」　　Ｅ：9.40
・第４位　山川　瑠都（埼玉栄）　14.950
　　Ｄ：5.6「ドリッグス」　　Ｅ：9.35
・第４位　米倉　英信（関西）　14.950

D：5.6「ドリッグス」　　E：9.35（着地加点有）

・第６位　寺地　祐次郎（栗東）　　14.900

D：5.6「ローチェ」　　E：9.30

■決勝で実施された演技（決勝 85 名　うち種目別出場者１名）

◇Group Ⅰ

ローチェ：2 名

前転とび：1 名

◇GroupⅡ

ドリッグス：7 名（着地加点 2 名）

アカピアン：37 名（着地加点 3 名）

伸身カサマツとびひねり：9 名（着地加点 2 名）

伸身カサマツとび：18 名

かかえ込みカサマツとびひねり：1 名

伸身ツカハラとび：1 名

屈身ツカハラと び：1 名

◇GroupⅢ

シライ／キム・ヒフン：1 名

シューフェルト：1 名

伸身ユルチェンコとび 2 回ひねり：5 名（着地加点 1 名）

伸身ユルチェンコとび 3/2 ひねり：1 名

■所感

予選260演技･決勝85演技のうち、着地を止めた演技は予選11名（4.2%）決勝8名（9.4%）、ライン減点があった演技は予選80名（30.8%）決勝27名（31.8%）、転倒があった演技は予選60名（23.1%）決勝8名（9.4%）という結果であった。

大会を通じて、第一局面から着地するまで「美しい体操」を実施しようとする意識の高い選手が多くいるように感じた。また、決勝では美しいだけでなく着地を止める（予選4.2%→決勝9.4%）ところまで意識した迫力のある雄大な演技も見られた。

一方、第一局面における軸ぶれ、第二局面において迫力のない実施、失速し明確な準備局面を示すことのできない実施、ひねりながらの着地、腰と膝を深く曲げての着地、転倒等する演技が多かった。

Dスコアを上げるために難しい跳越技にチャレンジした結果、「安定した演技実施」から遠ざかり、厳しい評価をせざるを得ない演技も散見された。予選だけでなく決勝においても30%を超える演技にライン減点があったり（予選30.8%、決勝31.8%）、予選の23.1%で転倒があったりしたことは「安定した演技実施」という面から考えると非常に残念な結果となった。

自己の能力を超えたチャレンジや不完全な実施をしてでも高得点を取りにいく姿勢を持つのではなく、これまで以上に「美しい体操」「安定した演技実施」を目指し、今後の練習に励んでいただきたい。

《平行棒》

D1（主審）：三富　洋昭

１．採点上打ち合わせた事項

・平成 25 年度高等学校適用規則，2013 年版採点規則（情報 21 号改訂版）の確認。
・倒立姿勢の美しい演技、スイングの雄大さ、かつスピード感のある演技の評価。
・演技全体として静止技と振動技の調和のとれた演技の評価。
・実施された技一つ一つの確認と演技全体の安定性、将来性を考慮し、最終得点を算出する。

２．採点上起こった事項とその処理

・チッペルト（ⅢD）については、バーに脚が乗った実施、上昇局面の際、脚が前に戻った実施は、認定しなかった。決勝において不認定は 5 件あった。
・棒下宙返り倒立（ⅣD）については、倒立に持ち込む際に 45°に満たない実施は、不認定とした。決勝において 1 件あった。
・その他決勝において C 難度以上で不認定となった技は、ビロゼルチェフ（ＩD）1 件、棒下宙返り開脚入れ支持（ⅣC）であった。
・アップの計測は、チームは全体で 200 秒を計測し、個人は各 50 秒の計測を行った。時間オーバーによる減点はなくスムーズに行われていた。アップ後一人目の演技者のバーの準備時間に関しては、60 秒ほどおいていたが、おおよそ時間内で演技が開始された。

３．その他特記事項・意見・感想等

■得点上位者（３位まで）の演技構成

・ <u>第１位　萱　和磨（習志野）　15.550　D：6.5　E：9.05</u>
棒下振り出し腕支持、後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持（ⅡD）、倒立、ヒーリー（ＩD）、倒立、棒下宙返りひねり倒立（ⅣE）、棒下宙返り倒立（ⅣD）、後方車輪倒立（ⅢC）、ビロゼルチェフ（ＩD）、単棒横向き懸垂閉脚浮腰支持倒立（ⅢC）、チッペルト（ⅢD）、移行、バブサー（ⅢE）、け上がり、倒立、後方屈身 2 回宙返り下り（ⅤD）

・ <u>第２位　谷川　航（市立船橋）　15.250　D：6.3　E：8.95</u>
棒下振り出し腕支持、後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持（ⅡD）、倒立、ヒーリー（ＩD）、倒立、棒下宙返り倒立（ⅣD）、後方車輪倒立（ⅢC）、モイ（ⅢC）、移行、バブサー（ⅢE）、け上がり、移行、チッペルト（ⅢD）、ツイスト（ＩC）、前振り上がり、前方開脚 5/4 宙返り腕支持（ＩD）、後方屈身 2 回宙返り下り（ⅤD）

・ <u>第３位　北村　郁弥（明星）　15.200　D：6.2　E：9.00</u>
棒下振り出し腕支持、後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持（ⅡD）、倒立、棒下宙返り倒立（ⅣD）、車輪ディアミドフ（ⅢD）、後方車輪倒立（ⅢC）、モイ（ⅢC）、移行、チッペルト（ⅢD）、ヒーリー（ＩD）、倒立、ツイスト（ＩC）、前振り上がり、前振り上がり、前方開脚 5/4 宙返り腕支持（ＩD）、前振り上がり、倒立、後方屈身 2 回宙返り下り（ⅤD）

■決勝で実施された主な技（D 難度以上）

・Group Ⅰ
　ヒーリー（D）：15 名、前方開脚 5/4 宙返り腕支持（D）：13 名
　ビロゼルチェフ（D）：21 名、モリスエ（D）：2 名
・GroupⅡ
　ハラダ（D）：2 名、後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持（D）：21 名
・GroupⅢ
　車輪ディアミドフ（D）：4 名、チッペルト（D）：42 名、ライヘルト（D）：6 名
　ベーレ（D）：4 名、ピアスキー（D）：1 名、バブサー（E）：6 名
・GroupⅣ
　棒下宙返り倒立（D）：56 名、単棒横向き逆上がり 1/4 ひねり倒立（D）：1 名
　棒下宙返りひねり倒立（E）：4 名、シャルロ（E）：1 名
・GroupⅤ（C 難度以上）
　後方屈身 2 回宙返り下り（D）：75 名、着地　+0.1：9 名、－1.0：9 名
　後方かかえ込み 2 回宙返り下り（C）：8 名、着地　+0.1：1 名、－1.0：1 名

■所　感

決勝において D スコア 6.0 以上が 7 名、昨年度の 5 名から 2 名増え、D スコアの平均は 5.1 で昨年度より 0.1 点上がった。特に上位選手層の D スコアが上がってきたように感じた。E スコアの平均は、8.20（昨年度 8.10）であった。決勝で C 難度以上の終末技は後方屈身 2 回宙返り下りが 75 名、かかえ込み 2 回宙返り下りが 8 名いたが、着地が止まった選手は、10 名、転倒または手で支え、1.00 減点となった選手が 10 名であった。

演技では、倒立のきめ、倒立へ持ち込む際の軸のブレ、静止を要求される技の静止時間不足、手のずらしや肩の動かし、着地などが主な減点対象となったが、特に、静止技の静止時間不足のみられる演技は全体の印象を下げてしまう感を受けた。静止が要求される倒立や脚前挙など A 難度技においても 2 秒の静止を示すことが望まれる。今後においてもこのような減点箇所を無くしていき、演技全体として将来性のある演技を期待したい。

マナー面においては、移動前のバーの準備でチームのメンバー全員が準備に来る場面がしばしば見られたが、１、2 名程で行うのが望ましいと思われる。

最後に今大会において種目別で決勝に残った選手が、6 位に入賞したことはこの制度を取り入れた成果になったと感じた。

《鉄　棒》

D1（主審）：多田　　聡

1.　採点上の打ち合わせ事項

・適用規則の確認（2013 年版採点規則、競技情報 21 号改訂版、平成 25 年度版高校適用規則）。また採点規則上の減点項目をそれぞれ確認した。特に独特の減点スケールについて（ひねり技やアドラーひねり系の技）は角度だけを機械的に減点するのではなく、運動経過を総合的に判断し、実施で差がつくよう確認した。
・終末技の着地が止まった場合は 0.1 の加点を E スコアに与える。
・一つひとつの確認作業とともに演技全体の出来映えを評価に反映するよう確認をした。

・時間帯や班、日にちによって基準がずれることのないよう申し合わせた。

2. 採点上起こった事項とその処理

・実施については個々の技で細部まで評価に反映されていた。例えば伸身 2 回宙返り 1 回ひねり下りについては、明確な伸身姿勢が表現できているものとそうでないもの、着地姿勢が高いものと低いものとで明確に差が付けられていた。

・以下の技は認定しなかった。

① 明確な上昇局面が示されない振り出し（懸垂振り出し倒立：Ⅲ－07）

② 明確な肩の転移が見られない大順手車輪は、通常の順手車輪と判定した。

③ アドラーひねり技については不完全な実施が多く、角度の減点に加え、演技面からの逸脱の減点も多かった。

④ 不明瞭なヤマワキを散見した。D 難度で認定する一方、そういった演技に対しては E スコアでの減点で対処した。

・D スコアに対する質問：3 件、難度やグループの確認。

3. 決勝における上位者の演技

1 位　内田　龍真（岸根）　15.000　D：6.0　E：9.00

前振りだし、ヤマワキ(D)、エンドー1 回ひねり大逆手(D)、アドラー1 回ひねり両逆手(E)、1 回ひねり大逆手（C)、アドラーひねり（D)、シュタルダー（B)、シュタルダーひねり大逆手（C)、大逆手車輪（B)、大逆手エンドー（C）後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り（E）

2 位　萱　和磨（習志野）　14.900　D：6.2　E：8.70

後ろ振り上がりひねり、シュタルダーリバルコ片大逆手（D)、アドラー1 回ひねり片逆手～ヤマワキ（D＋D)、エンドー1 回ひねり片逆手（C)、アドラーひねり（D)、リバルコ（D)、大逆手車輪（B)、大逆手エンドー（C)、クースト、(C）後方伸身 2 回宙返り 2 回ひねり下り（E）

3 位　谷川　航（市立船橋）　14.800　D：6.0　E：8.80

前振りだし、ヤマワキ（D)、エンドー１回ひねり片大逆手（C)、アドラーひねり（D)、伸身トカチェフ（D)、トカチェフ（C)、シュタルダーひねり大逆手（C)、大逆手車輪（B)、大逆手エンドー（C)、アドラー（C）クースト（C)、後方伸身２回宙返り２回ひねり下り（E）

4. D スコアの分布（決勝 85 名　＊うち種目別出場者１名、0 点１名）

6.2：1 名、6.0：3 名、5.9：1 名、5.8：4 名、5.7：4 名、5.6：10 名、5.5：4 名、5.4：8 名、5.3：8 名、5.2：8 名、5.1：6 名、5.0：4 名、4.9：5 名、4.8：3 名、4.7：4 名、4.6：3 名、4.5：1 名、4.4：2 名、4.3：1 名、4.2：1 名、3.9：1 名

3.6：1 名　3.2：1 名

◆実施された主な技（決勝 85 名　＊うち種目別出場者１名、０点１名）

手放し技　：ヤマワキ（D で認定したもののみ）53 名、ムノズ（E）1 名

トカチェフ（C）17 名、伸身トカチェフ（D）10 名

伸身イェガー（D）2 名、ギンガー（C）3 名（内１名落下）

コバチ（D）3 名（内１名落下）、コールマン（F）6 名（内１名落下）

ポゴレロフ（E）１名、ヴィンクラー（E）１名

終末技　　：後方伸身２回宙返り下り（C）・・・・・・・・・・・・・・ ６名

後方屈身２回宙返り１回ひねり下り（C）・・・・・・・・ １名

後方伸身２回宙返り１回ひねり下り（D）・・・・・・・・51 名

後方伸身２回宙返り２回ひねり下り（E）・・・・・・・・25 名

（後方かかえ込み２回宙返り下り１名）

◆主なコンビネーション

・アドラー1/1 ひねり片逆手倒立～ヤマワキ（D＋D）２名

5.　その他・特記事項・感想

例年通り実施を犠牲にしてまで高い難度の技を使おうとする演技は少なかったように感じられた。手放し技は落下のリスクがあり、上位者の演技でも２つ、あるいは１つの手放し技での演技構成が大半を占めた。手放し技による落下は決勝では３名であった。手放し技の完成度を高め、組み合わせを含めた手放し技が３つ４つ入った演技構成を目指してほしい。また、ボローニン、上向き飛び越しを実施した選手の大半が技術的に大きく間違った実施であった。また、手放し技の後のけ上がりやエンドーでの減点が目立った。鉄棒の華である手放し技にさらに取り組むことをお願いしたい。

・シュタルダーやエンドーでのバータッチも目立った。また、シュタルダーやエンドーひねりから片大逆手、大逆手になる技においてのひねり前の停滞も目立った。

・ひねりから大逆手になる技では受けの角度を含め、素晴らしい実施を数人の選手がしていた。

平成２６年度全国高校総体「審判員報告書」

審判長　前　田　節　夫

１　採点上打ち合わせた事項

（１）審判研修の実施

ア　審判員宣誓の厳守について

イ　採点競技の特性について

ウ　新体操の方向性について

（ア）個人競技について

（イ）団体競技について

エ　個人競技の採点内容の確認

（ア）種目間の採点レベルに大きな差が出ないこと。

（イ）各要素の確認をして採点を。

オ　団体競技の採点内容に確認

カ　採点規則の共通理解についての確認

キ　審判員の採点・業務にあたっての心得について

（ア）特に審判員は、会場内での監督・選手との接触を禁止すること。

（イ）審判員としてのモラルとマナーの厳守について、自覚と誇りを持っての審判業務を行うこと。

（２）主任審判員を中心に採点規則及び高校生適応ルールの確認

（３）監督、コーチや選手に競技者としてのモラルマナーを求める。

２　採点上起こった事項とその処理

特になし。

３　その他特記事項・意見・感想等

（１）個人競技におけるパンタロンズボンの裾が長い選手が多く、諸事情もあると思われるが、適正の長さにての演技を望みたい。演技評価に不利になる場合を知って欲しい。

（２）監督会議において競技者としてのマナーについて、毎年お願いをしておりますが、今回もIDの不正使用が報告され、教育活動の一環としては非常に残念な事です。

また、応援マナーについても以前より監督の先生には、お願いをしてきましたが具体的な内容をお話してほしいとの技術部よりの依頼があり、特に演技中の応援はしないようお願いしましたが、守れず審判長より注意をしましたにも関わらず是正されない現状は、全国高校総合体育大会を愚弄する行為ではないかと思う次第です。

新体操は、見せる競技であり審判の採点だけではなく、応援者や一般の観客者にも観て楽しんでいただく競技です。一生懸命練習してきた演技に高価な伴奏音楽が一体となって実施している演技を大声で応援することは､演技者のためになるでしょうか。

全国高体連の監督は、演技中の伴奏との一致の部分での減点を受け入れていただける覚悟をお持ちでしょうか。演技と直接関係の無い減点につきましては、できる限り教育的配慮により減点しない方針で行ってきましたが、この問題は演技の評価に関わる事を知っていただきたいと考えます。

同様に伴奏音楽の音量についても耳が痛くなるほどのチームがありましたが、男子新体操の認知度がマスコミやTVのおかげで高くなり、一般の方の観客者が増加しているなかで我々がその方々よりどのように見られているかを意識しましょう。

全国高校総合体育大会を町内の運動会状態に自らが行っていることに。

大会開催は、地元の役員さんや補助役員のご理解やご尽力でのおかげで成り立っており、監督・コーチ・選手の言動により大会関係者の皆様方がとっても不愉快な思いをされる事も同様です。

（３）大会運営について、地元役員の方々及び補助員の生徒諸君のご尽力に対して、

深く感謝申し上げます。

C3 団体競技（構成）　個人競技（クラブ）　主任審判　中田吉光

１．採点上打ち合わせた事項

（１）団体・個人共通

・審判という立場は方向性・指導性を決めるため、不信感をもたれないように行動することと質問に対し説明責任があることを通達した。

・失敗に対する減点を見極めることは当然のことであるが、ワンミスが響き過ぎないようにそれぞれの質をしっかり見極めることも確認した。（どのぐらい時間を要し、手具操作・体作りをしたものか）

徒手系 ＝「自然に・大きく（小さく）・美しく」

転回系 ＝「早く・高く・美しく」

・スキャットの解釈として、全審判員の意見が違反と捉えた場合のみ減点することとした。

（２）団体競技

・構成上、表現や組運動などのバランスを重視すること。

・6 人同時性という部分の評価をしっかり見て行くこと。

・隊形変化の多様性（演技面の使用・移動方法や軌道）を見る。特に崩れている隊形の減点が特段見られないため。

・四肢の動きだけにとらわれず、しっかり体幹が使われているかを見ること。

・重心（踵）の引き上げ、姿勢（上挙の肩の上げ）、動きの柔軟性、跳躍力、転向などの軌道等を見ること。

・交差技での空間の使いを見ること。（転回系を越えているというよりも静止している徒手系を跳んでいる場合が多い）

・タンブリング難度をとるための評価の確認。（同じ技がある、多様性）

（３）個人競技

・手具の重さを感じられるような自然性からくる深さ・大きさ・スピードを考慮して審判すること。

・クラブの同時投げ時によくある回転の相違、高さの違いに対する共通理解をもった。

・団体同様、重心（踵）の引き上げや可動域の大きさ・姿勢を見極めること。

２．採点上起こった事項とその処理

・特になし。

３．その他特記事項・意見・感想等

（１）団体競技

・事前打ち合わせでも話に出したが、やはり同じ種類のタンブリング技での構成が気になった。多様性をもって構成してほしい。

・基本姿勢（上挙・つま先）が悪く、動きの質（屈伸の深さや腕の振り）が弱い。また、重心（踵が上がらない）が低い。

・組からタンブリング、またその逆のタンブリングから組という流れの構成も多い。

・タンブリングの合間に徒手をしているという感じにみえる。もっと徒手の流れを重視してシンプル（自然さ）が欲しいという意見があった。そういった意味では審判員のみならず全ての関係者に促す必要性があるのではないかと話しが出た。

・団体ならではの 6 人同時性の部分が限られた基本徒手だけのようになってきて、本来新体操の最も魅力的部分で且つ極めるのに時間を要するその部分（6 人同時性）をもっと評価するべきではないか。特に、タンブリングの同時性の観点から、３連続バク転からの宙返りなど男子新体操の醍醐味が少なくなっている。

・併せて倒立や柔軟などの静止技での作り方やその形など難しさを評価していかなければならないのではという意見が出た。

・鹿児島実業高校の方向性について話が出た。特に今年のテーマ（曲）として教育的に良くない。指導すべきという意見が出た。
・選手が入場し始めのポーズを取り静止する前に音楽が鳴ってしまったチームがあった。

（２）個人競技
・タンブリングの助走時も演技にしてほしい。
・クラブの持ち手（持つ場所）が気になる（頭の部分を持ち操作する。首の部分を持って操作している選手が多い）と同時に、手具を投げその受け方が雑である。
・上位入賞者は独創的な作品で世界観を感じるとともにかなり高いレベルに進化している。ジュニア期からの育成の賜物である。
・全体的に重心が低く（手具操作にばっかり気を取られている）転回系・手具操作の多様性が乏しい。タンブリング後に直ぐ操作に繋げるなどの工夫がほしい。

C3 団体競技（実施）　個人競技（スティック）　主任審判　田中　幸一

１　採点上打ち合わせ事項
（１）共通
ア　高校適用ルールの確認（禁止技、0 点と制限技は構成点が 0 点）
（２）団体競技
ア　徒手系で、身体の重心がしっかり引き上げられ、深さや大きさ、スピードに変化があり、体幹からの動きが出来ているか。
イ　転回系が高難度になっているので、正確な着地が実施されているか。
ウ　転回系におけるシリーズにおいて、転回系に入る前や終了後に静止が無いかしっかり見ていく。
（３）個人競技
ア　転回系におけるスティックが生かされているか。生かされていない場合
減点-0.1
イ　スティックに要求されて要素の確認と多様性（スティックが生かされているか）を見る。
ウ　左右均等に手具操作がされているか見る。

２　採点上起こった事項とその処理
特になし

３　その他、特記事項・意見・感想等
（１）団体・個人競技共通
ア　身体の重心が引き上げられ徒手が行われているかしっかり確認していた。
イ　練習環境と経験年数の差から、上位のチームおよび個人（９点台）と、中位のチームおよび個人（８点台)、下位のチームおよび個人（７・６点台）と、三層の得点差がはっきりしていた。
（２）団体競技
ア　身体の重心が引き上げられ徒手が行われているかしっかり確認していた。
イ　練習環境と経験年数の差から、上位のチームおよび個人（９点台）と、中位のチームおよび個人（８点台)、下位のチームおよび個人（７・６点台）と、三層の得点差がはっきりしていた。
（２）団体競技
ア　今大会ではバランスや倒立のミスが多く、大きく減点されたチームがあった。
イ　転回系における着地ミスが多かった。
ウ　ボディムーブを多く取り入れる傾向があり、団体の同時性が少なくなってように思われる。
（３）個人競技
ア　スティックの投げで、同じ方向（下から前方へ）が多く、投げの多様性を望み

たい。

イ　左右均等の操作が無い選手が多く、高得点が出た選手はミスもなく左右均等に近い操作があった。

ウ　転回系の助走時に、手具が生かされているか否かで差が出た。

（４）「全国高体連体操専門部新体操男子（Ｃ３）技術部長としての意見」

ア　監督会議に前田審判長から、新体操は「聞かせて・見せる競技」という説明があったように、

１）応援によって、静かなイントロが聞き取りにくい。（審判にも支障）

２）また、演技に合わせた応援も伴奏音楽が聞き取りにくく、一般の観客から、異様な応援に聞こえる。

３）女子の演技中に、男子の得点が出て保護者や関係者の悲鳴が聞こえる。（逆もあります）

上記のようなことを考えて大会前の男女技術部会で、応援マナーについて監督会議時に審判長より徹底してもらうために長い時間をかけて伝達してもらいました。その結果、青森県の学校のように徹底された（エールの終了を待って入場する）ところもあれば、徹底されなかった（入場し伴奏音楽が鳴ってもエールを送っている）な学校も多数ありありました。

同じ指導・注意を受けながら、徹底されない高校もがあるのは何なのでしょうか？

１）監督の指導力？（補欠選手・保護者への指導）

２）人間性？（自分のチームが盛り上がればよい）

３）新体操を愛し発展させみんなに認めてもらい、国体復活をさせたいという高体連の意向に反した協調性の無さ？が、このような状況になっているのであれば残念です。

イ　また、国際大会が開催される会場で観客席も多く、席取りの徹夜組もなかったみたいで開催地の役員にとっては、気苦労がひとつなくなり良かった。しかしながら、ＩＤカードの不正使用が今年もあったことをお聞きし、高校教育で模範となるべく指導者により行われたことは非常に残念です。

地元高校生が、ＩＤカードの確認をしている苦労を考えてほしい。

上記以外にも大会本部からの苦情をお聞きしましたが、Ｃ３部会としてこのような件が続くようであれば、大会出場に関する規定を考えていかなければならない状態にあります。

各監督の先生方、新体操を愛し選手を思いやる気持ちがあるのであれば、是正していきましょう。

（５）その他

ア　ルール変更（演技開始までのタイム規制）と大会役員のスムーズな運営により、競技が時間通りに進み余裕を持って運営がなされていた。

大会運営に携わって下さった役員の皆様方のご努力の賜物だと感じました。ご苦労さまでした。